



NASU-MATERIAL

NASU-MATERIAL Corporation Environmental Report

環境報告書 2018



那須マテリアル株式会社

<http://www.nasu-material.co.jp>

環境報告書の作成にあたって

この環境報告書は、那須マテリアル株式会社における環境に関する活動の成果を取りまとめ、公表するものです。

● ● ● 環境報告書対象組織 ● ● ●

那須マテリアル株式会社

本社工場 (栃木県大田原市)

東北事業所 (福島県西白河郡西郷村)

● ● ● 環境報告書対象期間 ● ● ●

2017年 4月 1日 ~ 2018年 3月 31日

当社の平成 29 年度の活動をまとめたものです。

● ● ● 参考にした基準又はガイドライン ● ● ●

この環境報告書は、環境省「環境報告書ガイドライン」を参考に作成いたしました。

発行 2018 年 7 月

<http://www.nasu-material.co.jp>

● ● ● CONTENTS ● ● ●

1. 会社概要 (グループ会社履歴・組織体制・グループ会社一覧)	3
2. 工場施設及び設備の概要	4
3. 環境方針	5
4. EMSの取り組み- (1)	6
EMSの取り組み- (2)	7
5. 教育訓練	8
6. 産業廃棄物の再資源化取り組み事例	9
7. 地球温暖化対策の取り組み	10
8. 地域社会への取り組み	11
9. その他の環境活動	12

1. 那須マテリアル株式会社について

● ● ● 会社概要 ● ● ●

社 名 那須マテリアル株式会社
 創設年月日 平成 9年 9月 9日
 操業開始日 平成12年 4月 1日
 本 社 栃木県大田原市北金丸2122
 東北事業所 福島県西白河郡西郷村大字
 小田倉大平175-5

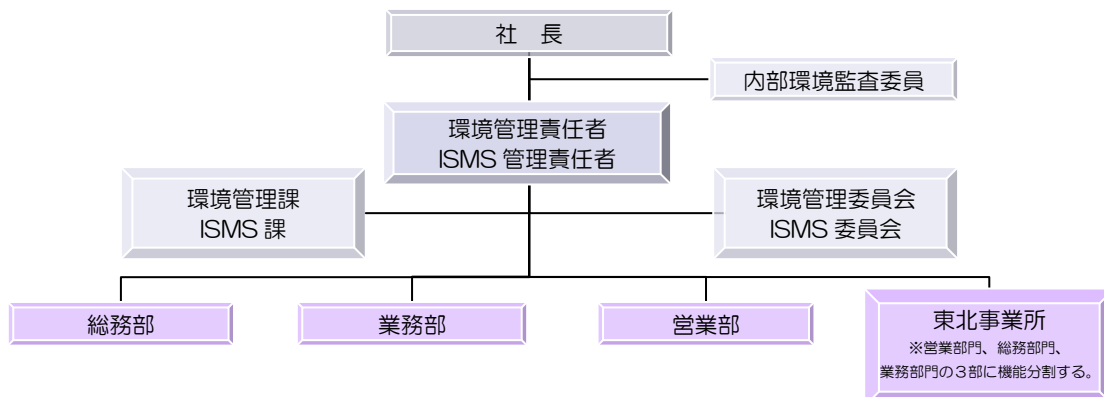
資 本 金 56,000,000円
 (平成30年3月現在)
 代表取締役 星 彰 治
 取 締 役 星 豪 紀
 取 締 役 星 祐 見 子
 監 査 役 高 梨 友 子

● ● ● 沿 革 ● ● ●

1997年 9月 那須マテリアル株式会社を設立
 2000年 3月 栃木県産業廃棄物収集運搬業許可を取得
 栃木県産業廃棄物処分業許可を取得
 2002年 11月 福島県産業廃棄物収集運搬業許可を取得
 12月 宇都宮市産業廃棄物収集運搬業許可を取得
 2003年 6月 星 彰治が代表取締役に就任する
 2004年 1月 那須マテリアル株式会社本社 ISO14001認証を取得
 2005年 3月 栃木県産業廃棄物収集運搬業許可を更新
 栃木県産業廃棄物処分業許可を更新
 2006年 4月 福島県にシリコンの選別・検査・加工の施設として東北
 事業所を開設する
 9月 一般労働者派遣業許可を取得
 10月 群馬県産業廃棄物収集運搬業許可を取得
 東北事業所を追加登録
 2007年 8月 那須マテリアル株式会社本社・東北事業所
 ISO27001の認証を取得
 9月 秋田マテリアル株式会社を設立
 10月 ISO14001 更新審査合格
 11月 福島県産業廃棄物収集運搬業許可を更新
 12月 宇都宮市産業廃棄物収集運搬業許可を更新
 2008年 1月 エヌズホールディングス株式会社を設立
 5月 秋田マテリアル株式会社、秋田県産業廃棄物処分業
 許可を取得
 2008年 12月 郡山市産業廃棄物収集運搬業許可を取得
 2009年 4月 那須マテリアル株式会社東北事業所増築工事了
 2010年 3月 栃木県産業廃棄物収集運搬業許可を更新

栃木県産業廃棄物処分業許可を更新
 7月 ISO27001 更新審査合格
 9月 茨城県産業廃棄物収集運搬業許可を取得
 11月 ISO14001 更新審査合格
 2011年 9月 栃木県において「優良産廃処理業社認定制度」適合認定
 (処分業・収集運搬業)
 11月 群馬県産業廃棄物収集運搬業許可を更新
 群馬県において「優良産廃処理業社認定制度」に適合認定
 2012年 1月 福島県において「優良産廃処理業社認定制度」に適合認定
 2012年 9月 テュフラインランドジャパン株式会社より、自社太陽光
 発電モジュールの適合証明書及び、ライセンスが発行される
 2013年 2月 太陽光発電設備（第一期）での売電を開始
 4月 太陽光発電設備（第二期）での売電を開始
 12月 東北事業所にて太陽光発電事業の開始
 2014年11月 福島県産業廃棄物収集運搬業許可を更新
 2015年11月 茨城県産業廃棄物収集運搬業許可を更新
 茨城県において「優良産廃処理業社認定制度」に適合認定
 2016年 2月 太陽光発電設備（低圧第四発電所）での売電を開始
 2016年 2月 太陽光発電設備（低圧第一発電所）での売電を開始
 2016年10月 太陽光発電設備（低圧第二発電所）での売電を開始
 2017年 3月 栃木県産業廃棄物収集運搬業許可を更新
 栃木県産業廃棄物処分業許可を更新
 引き続き「優良産廃処理業社認定制度」に適合認定(処・収)
 2017年10月 風力発電設備（低圧第一発電所）での売電を開始
 2018年 2月 栃木県産業廃棄物処分業許可において、取り扱う産業廃棄物
 の種類の変更(木くずの追加)、移転・施設増設の追加
 2018年 6月 太陽光発電設備（低圧第三発電所）での売電を開始

● ● ● 環境への推進体制 ● ● ●



2. 工場施設及び設備の概要

● ● ● 本 社 工 場 ● ● ●



本社事務所

- 所在地 栃木県大田原市北金丸 2122
敷地面積 33,510 m²
業務内容
- OA 機器・金融機器・家電等の電子機器等の手解体・選別により、鉄・非鉄、貴金属・ガラス・プラスチック・紙回収によるリサイクル
 - シリコンスクラップの売買及び検査加工業務、並びにソーラーグレードシリコンインゴットの売買
 - 太陽光、風力を利用した発電業務、電力の販売、並びに太陽光発電施設の企画・提案、販売、太陽光発電機械器具の販売、設置
 - 建設資機材・環境機器のレンタル事業

●保有設備（本社所有）

名称	数量	名称	数量
破碎機	1	ローリフト	1
粉碎機	1	トラックスケール	1
被覆電線処理装置	1	プリンター付デジタル計量器	1
発泡スチロール減容再生機	1	2 tトラック	1
フォークリフト	2	4 tトラック	2

●保有設備（本社レンタル品）

名称	数量
3.8m 敷鉄板	150
バックホウ油圧ショベル	2
三脚付光波プリズム	3
自走式木材破碎機	1

● ● ● 東 北 事 業 所 ● ● ●

- 所在地 福島県西白河郡西郷村大字小田倉字大平 175-5
敷地面積 2,940 m²
業務内容
- 鉄・非鉄、貴金属・プラスチック・紙回収によるリサイクル
 - シリコンスクラップの売買及び検査加工業務、並びにソーラーグレード、シリコンインゴットの売買
 - 太陽光を使用した発電業務、電力の販売



東北事業所

●保有設備（東北事業所所有）

名称	数量
フォークリフト	2
シリコン自動選別機	1
プリンター付デジタル計量器	1

● ● ● グループ会社 ● ● ●

● エヌズホールディングス株式会社

本社 福島県西白河郡西郷村大字小田倉大平 175-5
大田原支店 栃木県大田原市北金丸 2122

TEL 0248-48-0099
TEL 0287-20-2660



● 秋田マテリアル株式会社

秋田県にかほ市平沢字深谷地 16-8

TEL 0184-74-527



3. 環境方針

当社は、廃棄物を国際資源と捉え、手解体、手選別という手法により、再資源化・有効利用していく「循環型社会の構築」という夢に貢献して参ります。

当社は、産業廃棄物処分及び収集運搬事業、シリコンスクラップの再生利用事業、太陽光、風力の発電業務、太陽光関連機械器具販売という環境保全に関わる事業を展開していること、また、再資源化事業者として、2011年3月11日発生の「東日本大震災」の復興に、素材の再資源化事業を通して付与して行く事を踏まえ、以下の方針に基づき環境管理を行います。

1. 当社は、当社の事業活動に伴って発生する環境影響等を認識し、環境負荷の低減に向け、環境マネジメントシステムの継続的改善及び汚染の予防に努めます。
2. 当社は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」等、当社の環境側面に関係して適用可能な法的要求事項及び当社が同意するその他要求事項を遵守することはもちろん、経済面・スタッフ・技術面において可能な限り更なる自主規制を設けます。
3. 当社の立地する大田原市金田地区は、ザゼン草の群生地や白鳥の飛来する羽田沼、また2006年4月開設した東北事業所の立地する福島県西郷地区は、日光国立公園「さわやか高原公園都市」と紹介され、大河川、「阿武隈川」の源流や、隣の白河市には、日本最古の「南湖公園」が存在するという恵まれた自然環境であることを踏まえ、当社の事業活動における環境負荷抑制のための最重要課題として以下の項目を設定します。
 - (1) 太陽光発電、及び、風力発電業務における電力の供給を行い、自然エネルギーの有効利用を推進します。
 - (2) 省資源・省エネルギーの推進、環境負荷の軽減に努めます。
 - (3) 収集運搬車両の燃費向上に努め、CO2排出を抑制するよう、エコドライブを心がけます。
 - (4) 再生入荷物及びリサイクル品の資源・素材の再利用及び再生利用を行い、有効利用を促進します。
4. これらの環境目的に従事する従業員に周知・認識させ、更に個々の視点からの発想も積極的に取り入れていき、「実行」の仕組みを確立し、「点検」・「見直し」の機会を設けていきます。
5. この環境方針は当社で働く又は当社に委託されて働く全ての人に周知するほか、社外の利害関係者に公表致します。

作成：2004年 6月 18日

改定：2018年 3月 9日



那須マテリアル株式会社
代表取締役 星 彰治



4. EMS の取組み

● ● ● 環境目的・目標一覧（全社）2017 年度 ● ● ●

区分	環境目的	著しい環境側面	基準値	運用開始 14 年度目	
				2017 年 (H.29) 度目標 期間：2017 年 4 月 ～2018 年 3 月	目標量等
Ⅰ 省エネ・省資源対策	1. 電力使用量の削減 (100V, 200V)	全部門での照明・事務機器・業務部関連設備等の稼働に伴う電力の消費 「CO2 削減」目標に置換え	本社 H26 実績： 38,885kwh 東北 H26 実績： 18,991kwh 合計：57,876kwh	■ CO2 排出削減目標に置換える	
	2. 作業資材の消費量の削減	手袋の消費数 東北事業所部門での作業資材の消費	H26 年度消費量 1,379 双	■ 1.0%削減	1,365 双
Ⅱ 廃棄物等排出対策	1. 車両からの排気ガスの削減①	営業用自家用車使用に伴う排気ガスの排出	データなし	■ CO2 排出削減目標に置きかえる	
	2. 車両からの排気ガスの削減②	業務に係わる車両（トラック）使用に伴う排気ガスの排出	データなし	■ CO2 排出削減目標に置きかえる	
	3. CO2 の排出削減	「電力」「軽油」「ガソリン」「LP ガス」「灯油」の使用に伴う CO2 の排出	H26 年度実績値： 45,342kgCO2	■ 基準値比 1.0%削減	44,889 kgCo2
Ⅲ 関連の緊急時対策 施設・設備・作業	1. 業務用トラック関連の予防保全	荷物の落下、飛散 人身、物損事故	H.25～28 年度実績： 緊急事態発生 0 件	■ 事故発生 0 件	
Ⅳ その他環境に有益な項目	1. 再生入荷物・リサイクル品の取扱量の増加による資源・素材の再利用及び再生利用の促進 <small>※H26 年度実績値：本社再生品の実績値（鉄、アルミ、ステンレス、プラスチック、雑品、シリコンの合計）</small>		H.26 年度実績： 1,747,000Kg	■ 基準値比 2.0%増加	1,781,940 kg
	2. 会社周辺のクリーン活動		H26 年度実績 2 回	■ 目標実施回数	2 回
	3. 社員による有価物類の回収		H26 年度回収実績 ペットボトル： 165.5kg ダンボール：1,238kg アルミ缶：106.5kg スチール缶：48.5kg	■ 目標：基準値比 2.0%増加 達成率 100%以上	ペットボトル： 167.6kg ダンボール： 1,253.5kg アルミ缶： 108.21kg スチール缶： 49.03kg
	4. 太陽光発電事業による CO2 の削減		H26 年度実績 473,589 kgCO2	■ 実績値の集計を実施する。	
	5. ドライブレコーダー導入によるエコ運転管理		ドライブレコーダーシステム診断得点 77 点以上	■ 無事故プログラム 評価 77 点以上	
	6. 新規アイテムのリサイクル業務		-	-	

Ⅰ 省エネ・省資源対策の「作業資材の消費」については、目標値を達成したため、Ⅱ 廃棄物等排出対策「車両からの排気ガスの削減①、②」については、「Co2 排出削減」目標に含めることで目標項目からは除外しました。Ⅲ 施設・設備・作業関連の緊急時対策「業務用トラック関連の予防保全」につきましては、H25 年以降事故発生件数が 0 件のため、除外しました。Ⅳ 有益な項目「社員による有価物類の回収」「エコ運転管理」についても目標値を上まわったため、除外しました。実績の集計については、従来通り実施し、経過観察を行います。

●●● 活動実績と推移（全社）2017年度 ●●●

環境目的		2015年度実績	2016年度削減率	2017年度削減率	実績結果
廃棄物等排出対策	<ul style="list-style-type: none"> 電力使用量の削減 車輛からの排気ガスの削減（営業車） 車輛からの排気ガスの削減（トラック） CO2の排出削減 	<ul style="list-style-type: none"> CO2排出実績値 50,852 kg-CO2 	削減目標の目標値 3.1%増加 2015年度実績値 基準とすると -8.61% 削減	削減目標の目標値 9.8%増加 2015年度実績値 基準とすると -7.23% 削減	CO2の算出計算については、環境省の「温室効果ガス排出算定・報告・公表制度」及び「電気事業者別の排出係数」等を用いて算出した。 電気事業者による排出係数の変動により、達成状況が変わることもあり、目標値の達成には至らなかった。しかし、2015年度の実績値より削減することができた。
	<ul style="list-style-type: none"> 再生入荷物・リサイクル品の取扱量の増加による資源・素材の再利用及び再生利用の促進 	<ul style="list-style-type: none"> 2015年度実績： 1,939,088kg 	2015年度実績を 基準値として -26.04% 減少	2015年度実績を 基準値として -34.52% 減少	「再生入荷物・リサイクル品の取扱量の増加」については、市場の状況等の影響もあり、ここ数年は厳しい状況が続いている。今後も市場の状況に留意し、柔軟に対応していく必要がある。
	<ul style="list-style-type: none"> 太陽光発電事業によるCO2の削減 	2015年度実績： 577,489kg-CO2	2015年度実績を 基準値として 3.77% 削減UP	2015年度実績を 基準値として 2.58% 削減UP	「太陽光発電事業によるCO2の削減」については、当社における排出CO2の量を大幅に上回っていることから、環境にとって、大変有益な活動といえる。 尚、2017年10月より、風力発電所（低圧）が発電を開始したので、来年度より集計に加算予定。
その他環境に有益な項目	<ul style="list-style-type: none"> 新規アイテムのリサイクル業務 				



5. 教育訓練

●●● 2017年度 教育訓練計画（全社） ●●●

主管：環境管理課

教育名	教育の内容	対象者	実施期間	主管部門・機関
1.一般教育Ⅰ・Ⅱ	E M S 概要、環境マネジメント活動全般（方針、目的目標、E M P 等含む）	管理者・一般従業員全員 （本社・東北事業所）	7～8月	環境管理課 推進リーダー
2.特定教育	・作業による顕在的又は潜在的な環境影響 ・手順書に従わなかった場合の環境影響 ・環境関連法規等 ・その他著しい環境側面に関する知識	適用者全員 （本社・東北事業所）	7～8月	環境管理課 推進リーダー
3.専門教育	外部セミナーに参加し、スキルアップを図る	今期内部監査リーダー	1回/年	指定会場
4.顧客要求事項教育	顧客先における環境安全教育の受講と社内における周知	該当部門責任者 関連作業従事者	1回/年	該当部門責任者
5.内部監査員教育	環境監査員養成講座 （環境管理責任者主催コース）	内部監査員候補者（1名）	9～10月	環境管理責任者
	環境監査員ブラッシュアップ教育	内部監査員新人メンバー （監査の前の訓練）	9～10月	内部監査リーダー
6.その他	再生可能エネルギーに関する教育	関連部門：担当者	10月～ 12月	環境管理課 （講師：社長）
7.防災訓練・ 緊急事態対応 訓練	わが社が特定している緊急事態 緊急事態発生時での対応及び処置 緊急事態の実際の訓練	緊急事態が想定される業務に 従事している従業員 （本社・東北事業所）	9月	部門責任者 環境管理課
		会社全体に関わる緊急事態 全従業員	9月	環境管理課

一般教育・特定教育



本社

当社では、毎年部門別または全社分の教育訓練計画に基づき、環境一般教育、特定教育、内部監査員教育等を実施し、すべての従業員に環境活動の取組みへの理解や環境意識の向上を図っております。また、教育効果をより向上させるため、少人数グループを形成して、実施しております。

内部監査員教育



内部監査員教育

防災訓練



本社

毎年1回、緊急事態対応訓練や、防災訓練を実施し、対応手順の確認や、テスト、備品類の整備を実施しております。

再生可能エネルギーに関する教育



顧客要求事項に関する教育



東北事業所

6. 廃棄物の再資源化

●●● 取り組み事例 ●●●

排出事業者より処理委託を受けた産業廃棄物を、極めて細やかに手解体・手選別することにより、鉄・非鉄・貴金属・ガラス・プラスチック等のリサイクル化を行っております。

手解体によるコピー機のリサイクルフロー



リサイクル処理報告書の作成

当社では、排出事業者様のご希望がございましたら、リサイクル処理報告書、廃棄証明書、解体写真の提出、または、搬入時に担当者様の立会のもと、廃棄物の適正処理状況の確認をしております。



素材の分別と出荷先



当社では、顧客情報や、業務上知り得た情報について、機密性を重要視し、漏洩等がないようスタッフ一同訓練を受け、セキュリティ義務を遵守しております。

7. 地球温暖化対策の取り組み

● ● ● 再生可能エネルギー ● ● ●

風力発電所（低圧第一発電所）の発電を開始しました



秋田県にかほ市にて風力発電を開始しました



風力発電とは？

風車は再生可能エネルギーの象徴

風のエネルギーを電気エネルギーに変えるのが風力発電。欧米諸国に比べると導入が遅れているものの、2000年以降導入件数は急激に増え、2016年度末で2,203基、累積設備容量は335.7万kWまで増加しています。

特徴

1. 陸上と洋上で発電が可能なエネルギー源

日本では陸上風力の設置が進んでいますが、導入可能な適地は限定的であることから、大きな導入ポテンシャルを持つ洋上風力発電も検討・計画されています。

2. 経済性を確保できる可能性のあるエネルギー源

風力発電は、大規模に発電できれば発電コストが火力並みであることから、経済性も確保できる可能性のあるエネルギー源です。

3. 変換効率が良い

風車の高さやブレード（羽根）によって異なるものの、風力エネルギーは高効率で電気エネルギーに変換できます。

4. 夜間も稼働

太陽光発電と異なり、風さえあれば夜間でも発電できます。

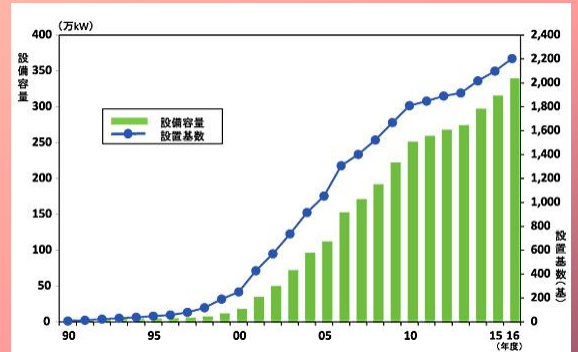
課題

世界では風力発電の発電コストは急速に低下していますが、日本の発電コストは高止まっています。また、系統制約、環境アセスメントの迅速化、地元調整等の開発段階での高い調整コストなども課題です



出典：ホームページより引用

日本における風力発電導入量の推移



出典：新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）ホームページ

8. 地域社会への取り組み

●●● クリーン活動 ●●●

本社及び東北事業所の工場周辺を当社の従業員が、一定期間毎にクリーン活動を実施しております。

本社工場付近クリーン活動の様子



東北事業所付近クリーン活動の様子



9. その他の環境活動

●●● 太陽光発電施設のパトロールと定期清掃 ●●●

本社及び東北事業所の太陽光発電施設を定期的に確認し、必要であれば除草や除雪等実施し、効率よく発電できるよう努めています。発電効率が高まれば、その分 CO2 排出の抑制に繋がります。



那須マテリアル株式会社は、事業活動及びこの環境報告書の情報開示を通じ、

地球社会・顧客・お取引先様とコミュニケーションを計るとともに、

信頼確保に今後とも努めて参ります。

2018年 8月

那須マテリアル株式会社

代表取締役

星 彰治

